

柴山潟から湧く、 温泉と花火



この花火が加賀温泉郷の
アイデンティティとなる

明治の開湯以来、多くの人を迎えてきた片山津温泉。夏の夜になると色鮮やかな花火が打ち上がり、湖面を美しく彩り、片山津温泉を象徴する夏の風景として、長年親しまれてきました。

花火まつりは、1980年に始まった「日本の花火まつり」を起点に、今年で47回目を迎えます。その始まりには、「地域の人や訪れた人に喜んでもらいたい」「温泉を楽しんだ後も、夜まで滞在を満喫してほしい」という地元関係者の願いがありました。

開催期間中、毎日約10分間にわたって花火を打ち上げる催しは、全国的にも珍しいものです。震災やコロナ禍など、継続が難しい状況も乗り越えながら、片山津の旅館や観光協会をはじめとする地域の人たちが力を合わせ、この夏の風景を守り続けてきました。

今年は、市内企業や個人の協力も得ながら、「加賀温泉郷納涼花火まつり in 片山津温泉」として新たなスタートを迎えます。これまで地元の人々によって受け継がれてきた道のりと新たに加賀温泉郷に夏の風物詩として変貌を遂げる姿を紹介します。

地域の思いが守る、夏の夜空へ

この花火まつりは、47回にわたり、一度も絶えることなく開催されてきました。柴山潟の夜空を鮮やかに彩る花火は、多くの人に感動や癒やしを与え、それぞれの大切な思い出とともに心に刻まれています。花火を見上げるたびに、当時の出来事と一緒に過ごした人との記憶がよみがえる、そんな存在でもあります。

これまでに、開催そのものが危ぶまれる困難な状況もありました。それでも、地域の皆さんの協力と、この伝統を何としても守りたいという強い思いで、一つ一つ乗り越えてきました。この花火は、長年受け継がれてきた地域の活力と不屈の精神を象徴する存在です。これからも、片山津の夏の夜空を変わず輝かせ、受け継がれてきた伝統を次の世代へつないでいきたいと思っています。



加賀温泉郷納涼花火実行委員会
委員長 岸 英樹 さん(右から2番目)